

藍藻 琵琶湖で見られるその他の藍藻

これまで琵琶湖で見られる藍藻の種類を紹介してきました。その他にも多くの種類が見られます。その中からいくつかの種類を紹介します。

Chroococcus disperses

(クロオコックス ディスベルスス：写真1) クロオコックスの仲間は球形の細胞が集まって寒天質の中に包まれていす。細胞の形は半球形になっています。琵琶湖では北湖で秋期に見られます。

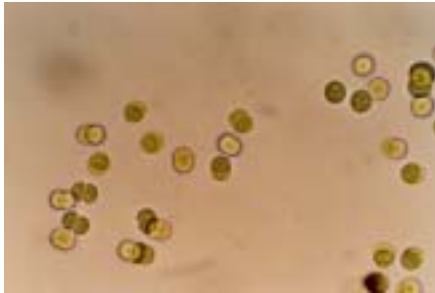


写真 1

Merismopedia tenuissima

(メリモペディア テヌイッシマ：写真2) メリモペディアは球形の細胞が上下左右に規則正しくならんだ板のような群體を作ります。この種は小型の種で、近年、赤野井湾で夏期に見られます。

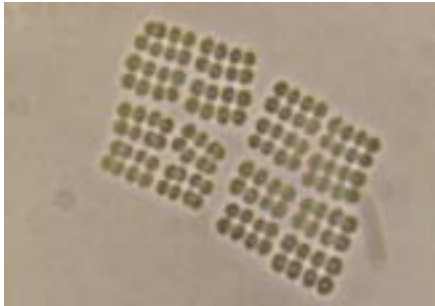


写真 2

Gomphosphaeria lacustris

(ゴムフォスフェリア ラクストリス：写真3) ゴムフォスフェリアは細胞がボールの外側に集まった形の群體を作ります。ボールの真ん中から細胞に向かって透明なテープのようなものが出ています。北湖で秋期に見られます。

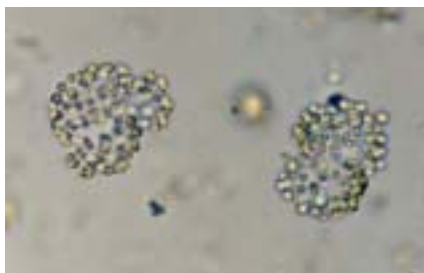


写真 3

Anabaena spiroides var. crassa

(アナベナ スピロイデス ヴァリエタス クラッサ：写真4) アナベナは以前ご紹介したようにジュズのような群體を作ります。この種は群體が螺旋状に巻いています。南湖で夏期、秋期に発生し、南湖で見られるアオコを作ることもあります。



写真 4

Anabaena macrospora var. crassa

(アナベナマクロスポラ ヴァリエタス クラッサ：写真5) この種はまっすぐの群體を作ります。最近アオコに混じってみられます。アナベナの種は群體の途中にアキネトという大きな細胞を作るので、その形も見て、種類を決めます。



写真 5

これまで 10 回に分けて琵琶湖で見られる主な藍藻の種類について説明をしてきました。これまでに説明した他に、もっといろいろな種類が見られます。池や沼のプランクトンを集めて顕微鏡で見るといろいろな藍藻の種類が見つかると思います

藍藻は約 30 億年以上前に出現して、それから長い間、地球の生物の主役でした。藍藻のおかげで空気の中に酸素が含まれるようになったのですから、私たち人間も藍藻のおかげをうけています。また、藍藻は 30 億年前も今も形はまったく同じです。ですから、藍藻こそ「生きている化石」といえます。

【琵琶湖水質担当】